

Fukuoka City Public Library Movie Hall
福岡市総合図書館映像ホール

シネラ

Ciné-là NEWS
シネラ・ニュース
July.1999 No.36

7

[特別企画]

ハリウッド・ミュージカル

[特集]

日本の実験映画の代表作家と60年代・70年代のアンソロジー

実験映画特集

シーサイドももち
映画祭

海と 港を巡る

うみと
みなとを
めぐる

博多港開港
100周年協賛

名作特選集



「狂った果実」/イラスト:山下良平

日本の実験映画の代表的作家と60年代・70年代のアンソロジー

実験映画特集

会期/7月14日(水)~18日(日)

観覧料/500円(大人) 400円(大学生・高校生)
300円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。
※福岡市在住の障害者の方は無料、福岡市在住の65才以上の方は半額。(手帳の提示が必要です。)

実験映画特集(作家と時代)

作品という言葉に対する定義はいろいろあると思いますが、一つの考え方として作家という縦系と時代という横系によって織り込まれた織物のようなものとして捉えると、出来上がった作品をパッチワークのように組み合わせて、作家性というものをみだせるのではないのでしょうか。一方で各作家の重要な作品を時代ごとに組み合わせるとその時代性というものが概観することができないでしょうか。このような分析は実験映画に限らず、あらゆる文化、芸術において行われていることですが、商業的な背景を持たない実験映画においては、こうして抽出された時代性や作家性はある意味では、より純粋で明確なものだといえるでしょう。

当館では日本実験映画の草創期から90年代半ばまでの100本以上の実験映画を収集・保存しており、実験映画のコレクションとしては日本有数のものです。今回も、日本の実験映画史が概観できるようになっています。

14日(水)19:00 16日(金)14:00

鈴木志郎康作品

詩人としても知られる鈴木志郎康は、日本における日記映画の第一人者である。極めて個人的な視線によるどこか即物的な映像を積み重ね、ナラティブな語り口によって独特の映像世界を形成していく。詩集の他、映像に関する著作も多い。

15日間

1980年/16ミリ/カラー/90分



14日(水)14:00 17日(土)11:00

かわなかのぶひろ作品

1960年代から実験映画製作を開始したかわなかのぶひろは、70年代始めにアンダーグラウンド・センター(現在のイメージ・フォーラム)を設立して、オーガナイザー、批評家としても活躍している。現在、日本を代表する映像作家の一人である。

新・北帰行

1974年/16ミリ/カラー/15分

SWITH BACK

1977年/16ミリ/カラー/9分

映像書簡(1)

1979年/16ミリ/カラー/25分

Bふたたび

1984年/16ミリ/カラー/20分

私小説V

1991年/16ミリ/カラー/25分



15日(木)19:00 17日(土)15:00

1950年代から作家活動が続ける奥山順市は、日本における実験映画の先駆者の一人であり、その時代、その時代によって、新しいスタイルを展開していきながらも、一貫してラジカルかつアバンギャルドな姿勢を貫いている。海外での評価も高い作家。

NO PERFORATION

1971年/16ミリ/カラー/10分

LE CINEMA

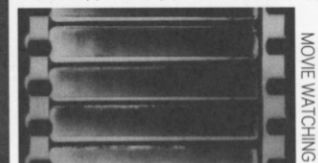
1975年/16ミリ/モノクロ/5分

我が映画旋律

1980年/16ミリ/モノクロ/5分

MOVIE WATCHING

1982年/16ミリ/モノクロ/12分



MOVIE WATCHING

安藤紘平作品

大学時代に電子工学を専攻し、天井桟敷に在籍したこともある安藤紘平は、1960年代末からビデオによる特殊効果を実験映画に取り入れた先駆者である。その後、記憶や時間概念に関する作品も手掛けるなど、その方向性は多彩である。

OH! MY MOTHER

1969年/16ミリ/カラー/10分

通り過ぎる電車のように

1978-79年/16ミリ/カラー/10分

MY COLLECTION

1988年/16ミリ/カラー/8分



MY COLLECTION

15日(木)14:00 18日(日)11:00

60年代実験映画選集

1960年代は海外の実験映画が多数紹介された時期であり、時代の雰囲気も合わさって日本の実験映画運動がもっとも盛り上がった時期であった。この時期に活動を開始した作家も多く、また他のジャンルとの交流が盛んであり、映画作家以外による作品も数多い。

へそと原爆 監督/細江英公
1960年/16ミリ/モノクロ/14分

円 監督/今井祝男
1967年/16ミリ/モノクロ/4分

伝説の午後、いつか見たドラキュラ 監督/大林宣彦
1967年/16ミリ/カラー/39分

おかしさに彩られた悲しみのバラード 監督/原将人
1968年/16ミリ/モノクロ/13分

70年代実験映画選集

1970年代は学生運動や社会運動が先鋭化し凶暴化すると、文化芸術にも微妙な影を落とすようになる。特にラジカルイズムや前衛運動も同一視され、忌避されるようになる。このため実験映画の活動は内向的なものを得ず、作品もより内面的なものが多くなる。

風流 監督/栗津潔
1970年/16ミリ/モノクロ/11分

アゾート 監督/中井恒夫
1973年/16ミリ/カラー/20分

10SEC 監督/榎本了吉
1973年/16ミリ/カラー/7分

コーヒーを飲む監督/渡辺哲也
1975年/16ミリ/モノクロ/15分

DESネットワーク監督/中島崇
1975年/16ミリ/カラー/17分

オランダ人の写真 監督/居田伊佐男
1976年/16ミリ/カラー/7分

フィルムディスプレイ 監督/瀬尾俊三
1979年/16ミリ/カラー/5分

特別企画 ハリウッド・ミュージカル

ハリウッド・ミュージカル〜フレッド・アステアとジーン・ケリー

ハリウッドにおけるミュージカルは、映画がトーキーとなった時からスタートする。ブロードウェイが中心であった華やかなミュージカルがスクリーンに登場したのは、1927年の「ジャズ・シンガー」からであるが、30年代になるとハリウッドは早くもミュージカルの大スターを生み出す。それがフレッド・アステアとジーン・ケリー・ロジャースのコンビだった。

ハリウッドにきた時「歌ダメ、顔ダメ、頭髪薄し、踊り少々」と言われたフレッド・アステアだが、そのダンスの優雅さ華麗さは群を抜いたものだった。そのアステアが美しさや陽気さを併せ持つジーン・ケリーとコンビを組んで出演した作品の数々は、世界中の人々を魅了したのだ。その後一時は引退するアステアだが、戦後「イースター・パレード」で見事に復帰、空を舞うようなタップにますます磨きをかけている。

30年代に黄金時代を迎えているミュージカル映画だが、40年代から50年代にかけてもう一度大きなブームを迎える。その立役者がジーン・ケリーであり、名作「雨に唄えば」の傘ささる中で踊る陽気なステップは、ハリウッド映画の名シーンとして多くの人の記憶に残っていることだろう。陽気で人なつこいジーン・ケリーは、その太陽のように明るいダンスとともに世界中の人々に愛されたのだ。「アステアの後にはジーン・ケリーしかいない」と言われる由縁である。勿論フランク・シナトラやジュディ・ガーランド等も当時を支えた大スターであった。そして脈々と続くミュージカル

の歴史は、60年代の「ウェストサイド・ストーリー」「サウンド・オブ・ミュージック」といった傑作へと繋がっていくのである。
なお「雨に唄えば」「オズの魔法使」「イースター・パレード」の3本は、上映の権利切れのため今回が日本における最終上映となるかもしれません。スクリーンで見ることで最後の機会をお見のがしなく。



雨に唄えば



イースター・パレード

1日(木) 14:00 イースター・パレード

Easter Parade

3日(土) 11:00 1948年/35ミリ/カラー/103分

アメリカ/日本語字幕付き

9日(金) 19:00 監督/チャールズ・ウォータース

出演/フレッド・アステア

アービング・バーリンの名曲とフレッド・アステア、ジュディ・ガーランドの共演が話題を集めた作品。戦後初めて日本に輸入されたミュージカル映画でもある。

2日(金) 14:00 踊る大紐育

On the Town

8日(木) 19:00 1949年 35ミリ カラー 98分

アメリカ 日本語字幕付き

10日(土) 15:00 監督/ジーン・ケリー、スタンリー・ドネン

出演/ジーン・ケリー

24時間の休暇をもらった3人の水兵が、ニューヨークで繰り広げる大騒動を描いたミュージカル。ジーン・ケリーの振り付けが素晴らしい。

3日(土) 15:00 雨に唄えば

Singin' in the Rain

8日(木) 14:00 1952年/35ミリ/カラー/102分

アメリカ/日本語字幕付き

11日(日) 15:00 監督/ジーン・ケリー、スタンリー・ドネン

出演/ジーン・ケリー

サイレントからトーキーへ移行する時期のハリウッドを舞台にした、ミュージカル映画を代表する傑作。土砂降りの雨の中で、ジーン・ケリーが歌い踊るシーンはあまりにも有名である。

1日(木) 19:00 錨を上げて

Anchors Aweigh

4日(日) 11:00 1945年/35ミリ/カラー/140分

アメリカ/日本語字幕付き

9日(金) 14:00 監督/ジョージ・シドニー

出演/ジーン・ケリー

休暇でハリウッドにやってきた二人の水兵(ジーン・ケリーとフランク・シナトラ)を中心にしたミュージカル。ジーン・ケリーとアニメーションのトム&ジェリーが踊るシーンが狂喜。

2日(金) 19:00 バンド・ワゴン

The Band Wagon

7日(水) 14:00 1953年/35ミリ/カラー/113分

アメリカ/日本語字幕付き

10日(土) 11:00 監督/ヴィンセント・ミネリ

出演/フレッド・アステア

人気の落ちたダンサーが大バレーナとミュージカルで共演しようという物語。フレッド・アステアの作品では、最もモダンで洗練された作品。

4日(日) 15:00 オズの魔法使

The Wizard of Oz

7日(水) 19:00 1939年/35ミリ/カラー/102分

アメリカ/日本語字幕付き

11日(日) 11:00 監督/ヴィクター・フレミング

出演/ジュディ・ガーランド

臆病なライオン、脳のないカカ、心のないブリキの人間とともに、エメラルド・シティに住むオズの魔法使いに会いに行く、少女ドロシーの冒険を描いたミュージカル映画の名作。

会期/7月1日(木)~11日(日) ※休館日・休映日を除く

観覧料/800円(大人) 600円(大学生・高校生) 400円(中学生・小学生)

※定員制・各回入替制。※チケットはすべて当日券。前売り券はありません。※福岡市在住の障害者の方、及び福岡市在住の65才以上の方は400円(手帳の提示が必要です。)

20日(火・祝)14:00 21日(水)19:00

狂った果実

1956年/35ミリ/モノクロ/86分/日活

監督/中平康 出演/石原裕次郎

石原裕次郎主演第一作となる太陽族映画の傑作。原作の石原慎太郎が自ら脚色し、中平の才気あふれる演出が素晴らしい。評論家時代のトリフォーも絶賛して、仏・シネマテーク蔵蔵の日本映画第一号となった。



20日(火・祝)11:00 21日(水)16:00

太陽の季節

1956年/35ミリ/モノクロ/89分/日活

監督/古川卓巳 出演/長門裕之

石原慎太郎の芥川賞受賞作の映画化。太陽族と呼ばれた湘南に集まる無軌道な若者達を主人公にしたこの作品は、大ヒットして後の太陽族映画の先駆けとなった。石原裕次郎が主人公の友人役で出演している。



100th ANNIVERSARY

100th

1999年博多港開港100年

シーサイドももち映画祭

博多港開港
100周年
協賛

22日(木)13:00
23日(金)13:00

網走番外地・望郷編

1965年/35ミリ/カラー/88分/東映

監督/石井輝男 出演/高倉健

有名な「網走番外地」シリーズの第三弾であり、七年間続いた同シリーズの事実上のラストとなった。主人公・横溝一が故郷の長崎に戻り、恩義のある人のために活躍する。シリーズ屈指の傑作。



22日(木)19:00
23日(金)16:00

日本侠客伝・花と龍

1969年/35ミリ/カラー/112分/東映

監督/マキノ雅弘 出演/高倉健

マキノ雅弘の代表的シリーズである「日本侠客伝」第九作で、火野葦平原作「花と龍」の映画化。石炭の荷揚げで活気づく戸畑港を舞台に、マキノ流の美学と演出によって「いなせ」の世界に生きる男達が描かれている。



27日(火)13:00
29日(木)16:00

どうぶつ宝島

1971年/35ミリ/カラー/78分/東映動画

演出/池田宏 アイデア構成/宮崎駿

有名な冒険小説「宝島」の動画面。主人公のジム少年以外ほとんどが動物であり、テンボよく繰り広げられる冒険活劇アニメーション。アイデア構成に宮崎駿が参加し、宮崎調も随所に現れた東映動画70年代の傑作。



邦画編

洋画編

29日(木)19:00 30日(金)13:00

フィオナの海

1994年/35ミリ/カラー/103分/アメリカ

監督/ジョン・セイルズ 出演/ジェニ・コートニー

ロザリー・K・フライの同名小説の映画化。1940年代、母を失った少女・フィオナはアイルランドに住む祖父母のもとに引き取られる。フィオナの生まれたローン・イニッシュ島はアザラシの住む無人島になっていた。



29日(木)13:00 30日(金)16:00

白い嵐

1996年/35ミリ/カラー/126分/アメリカ

監督/リドリー・スコット 出演/スコット・ウィル

1960年に実際に起こった海難事故をもとに、船員を志す少年達と彼らを指導する教官の信頼関係を描いた青春映画。教官の厳しい訓練に、最初は反発していた少年達だが、信頼や友情が芽生えていく。



28日(水)16:00 30日(金)19:00

プロジェクトA 2・史上最大の標的

1987年/35ミリ/カラー/105分/香港

監督/主演/ジャッキー・チェン

ジャッキー・チェンの10周年記念映画「プロジェクトA」の続編。20世紀初頭の香港、革命軍や暗黒街と立ち向かう水上警察、陸上警察の隊員達。香港製アクション映画の傑作。



20日(火・祝)17:00 21日(水)13:00

太平洋ひとりぼっち

1963年/35ミリ/カラー/97分/石原プロ=日活

監督/市川崑 出演/石原裕次郎

小型ヨットによる太平洋単独横断を成功させた堀江謙一の同名手記の映画化。大阪湾を出航し、サンフランシスコ到着までの自然に翻弄されながら孤独な航海を、市川崑の映像美と石原裕次郎の熱演で描く。



22日(木)16:00
23日(金)19:00

うみとみなとを
めぐる

霧笛が俺を呼んでいる

1960年/35ミリ/カラー/80分/日活

監督/山崎徳治郎 出演/赤木圭一郎

「第三の男」をベースとして舞台を霧に包まれた港町に設定した日活アクション映画。若くして亡くなった赤木圭一郎の代作であり、彼が歌う主題歌も大ヒットした。脚本は熊井啓。



海と港を巡る、名作特選集

銀幕に潮が騒ぎ霧笛鳴く、今宵あなたは眠れない

このように「湊」という機能は、単に物を運んでくるばかりでなく、常に「人やモノ、情報」を伝え、長い時間をかけてその地域独自の文化を育んでいます。また一方では、港は様々な出会いと別れの場所であり、色々な人間模様を繰り広げられた舞台でもありました。港の長い歴史には、実に多くの人間物語の記憶が刻まれており、世界中にはこうした港をテーマにした優れた映画が数多く残されています。今回、福岡市総合図書館では「博多港開港100年」を記念して、ひとびとの生活と関連の深い「海」や「港」が舞台となった作品を取り上げ、様々な人間模様が描かれた名作の数々を「シーサイドももち映画祭」として特集上映いたします。今回の企画は、映画が大好きな方、青春時代によく映画を見られた方大集合の特別上映企画です。銀幕の世界で活躍する世界のスター達と出会いながら、「青春時代のほのかな想い」にもう一度じっくりと浸ってみませんか。

27日(火)19:00 28日(水)13:00

ベニスに死す

1971年/35ミリ/モノクロ/130分/イタリア

監督/ルキノ・ビスコンティ 主演/ダーク・ポガート

イタリア映画の巨匠・ビスコンティの代表作。原作はトーマス・マンの短編小説。偶然出会った美少年に完全なる美を見いだした老いた高名な作曲家は恍惚と苦悩、歡喜と絶望にふるえる。



27日(火)16:00 28日(水)19:00

アラン

1934年/35ミリ/モノクロ/76分/イギリス

監督/撮影/ロバート・フラハティ

ロバート・フラハティが、英国のアラン諸島に一年半に渡って滞在し、完成させたドキュメンタリー映画。戦前の英国ドキュメンタリー運動の金字塔であり、映像詩ともいべき映像が見事である。



24日(土)14:00
25日(日)11:00

旅情

1955年/35ミリ/カラー/100分/アメリカ

監督/デビッド・リッ

水の都・ベニスに舞台にアメリカ人旅行者の独身女性、中年紳士に恋をする。巨匠・リッの初期代表作であり、英国文芸映画の格調を感じる映像美と切ない音楽がみごとな名作。



24日(土)11:00
25日(日)17:40

いつも二人で

1967年/35ミリ/カラー/113分/アメリカ

監督/スタンリー・ドナルド

「シャレード」につづくオードリー・ヘップバーンによる夫婦愛を描いた作品。危機を迎えた夫婦が、やり直したため最初に出会った海を目指して旅をする。ヘンリー・マンシーニの華麗な音楽も美しい。



24日(土)17:00
25日(日)15:20

男と女

1966年/35ミリ/カラー/104分/フランス

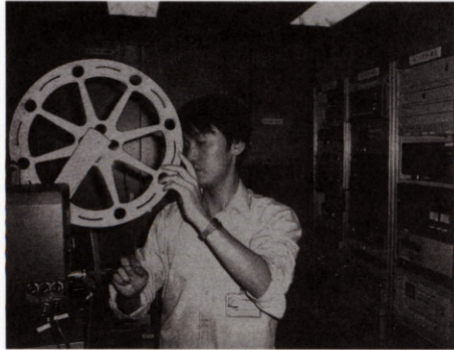
監督/クロード・ルーシュ

妻に自殺された男、夫と死別した女。互いの子供の通う寄宿学校で出会った男女は、過去の思い出に引きつけられながらも、互いに惹かれあふていく。カンヌ映画祭を受賞したフランス映画の名作。



ミニシアター

ミニシアターのプロジェクターが、上映開始直前にゆっくりと降りてくる時が僕は好きです。その儀式のような動作を合図にみなさんが手元の雑誌などを片付けはじめる。そして一瞬場内は闇に包まれてスクリーンだけが眩しく光り出す様子を見るのがたまらないのです。ビデオライブラリー隣接のミニシアターは、どなたでも気軽に名作を観賞できると、根強いファンが急増中です。このページでもブリティッシュ・カウンシル上映会(隔月一回の特別企画)のお知らせ等でご存じの方も多いと思いますが、最近では通常の上映内容も充実してきており、開場と同時に50席



ミニシアター映写室

が満席となることも珍しくなくなりました。先日、僕がお世話になったデパートの店員さんも偶然ミニシアターをご存じて「あの企画は良かったですね!」と言ってくださったことがとても嬉しかったので、奮発して高いシャツを買ってしまいました。ミニシアターには長期にわたる上映計画はなく、型にはまった上映スタイルを排除したタイムリーな企画づくりを大切に考えています。例えば7月の土日は、今年度新たに映像資料として加わったアカデミー賞受賞作品を中心に幅広く映画を紹介するかたちで上映します。ミニシアターで出会う名画をきっかけに、もっとその映画について知りたくなったり学びたくなったりしていただけたら、ものすごくエキサイティングだと思います。ビデオライブラリーには6,000タイトルを超えるビデオ作品があり、それに関係する映像図書も充実しているので、映画についてしっかり学ぶこともできます。これは他の映画館とは全く違うスタイルでの観賞法であり、それぞれの機能がリンクした当館ならではの楽しみ方だと思います。来館の際は是非ミニシアターに立ち寄って、上映作品をチェックされてみてはいかがでしょうか。

映像調査員/山下良平

お知らせ

INFORMATION

ギャラリー展示

第3回文書資料新収蔵品展

郷土福岡の歴史

平成9年度に収集した古文書等を紹介する展覧会を開催します。今回の展示は、「福岡藩政」「福岡藩の学者」「明治大正時代の福岡」「昭和時代の福岡」の4つのコーナーに分けて行います。まず、「福岡藩政」では、藩主黒田氏とその家臣の関係資料、「福岡藩の学者」では、修猷館を創

設した竹田氏、甘棠館を創設した亀井氏の関係資料を展示します。「明治大正時代の福岡」「昭和時代の福岡」では、明治から昭和まで、各時代の福岡で活躍した人物の関係資料を展示します。

会期:平成11年6月29日(火)
～8月29日(日)

会場:福岡市総合図書館1階ギャラリー
観覧料:無料

映像ホール利用申し込みについて

平成11年12月以降、映像ホールで図書館の企画上映がない下記の期間は、映像ホールを有料で利用することが出来ます。(但し映像文化の普及振興を目的とした非営利の映写会に限る)

期間:平成11年12月22日(水)～12月26日(日)
7月1日(木)11時より受付

利用に関しては条件等がございますので、詳しくは福岡市総合図書館映像資料課
TEL:092(852)0608までお問い合わせ下さい。

シネラNEWS送付のご案内

シネラで上映する作品の紹介や上映スケジュール、図書館で開催される各種イベント等の情報を掲載した「シネラNEWS」を毎月お届けします。定期購読を希望される方は平成11年8月より平成12年3月号迄の月数分の郵便切手(90円×月数分)を同封して下記宛先までお申し込み下さい。

宛先:

〒814-0001福岡市早良区百道浜3丁目7番1号
福岡市総合図書館映像資料課まで

ビデオ編集技術研修室のご案内

ビデオ研修室では、家庭で撮影された8ミリビデオや各行事の記録ビデオの編集などに利用できます。(使用料1時間500円、連続使用3時間迄、デジタルビデオの編集は不可)

※詳しくは福岡市総合図書館映像資料課まで

次号の予告

特集 アジアのこどもたち 8/1～8/15

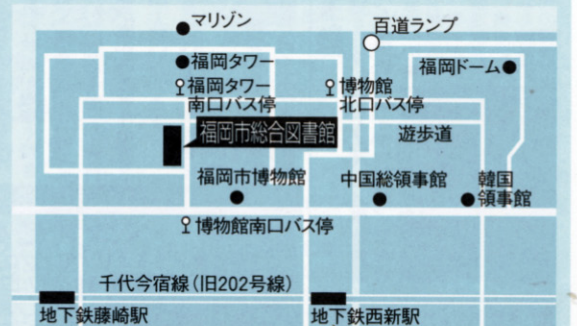
「はくは一人前」「泥の河」「チック・タック」他

特集 アニメーション 8/18～8/22

「白蛇伝」「展覧会の絵」「かぐや姫」他

上映スケジュール

7月	1木	14:00 イースター・パレード	19:00 錨を上げて
	2金	14:00 踊る大紐育	19:00 バンド・ワゴン
	3土	11:00 イースター・パレード	15:00 雨に唄えば
	4日	11:00 錨を上げて	15:00 オズの魔法使
	5月	休館日	
	6火	休映日	
	7水	14:00 バンド・ワゴン	19:00 オズの魔法使
	8木	14:00 雨に唄えば	19:00 踊る大紐育
	9金	14:00 錨を上げて	19:00 イースター・パレード
	10土	11:00 バンド・ワゴン	15:00 踊る大紐育
	11日	11:00 オズの魔法使	15:00 雨に唄えば
	12月	休館日	
	13火	休映日	
	14水	14:00 かわなかのぶひろ作品	19:00 鈴木志郎康作品
	15木	14:00 60年代実験映画選集	19:00 奥山順市・安藤純平作品
	16金	14:00 鈴木志郎康作品	19:00 70年代実験映画選集
	17土	11:00 かわなかのぶひろ作品	15:00 奥山順市・安藤純平作品
	18日	11:00 60年代実験映画選集	15:00 70年代実験映画選集
	19月	休館日	
	20火	11:00 太陽の季節	14:00 狂った果実
	21水	13:00 太平洋ひとりぼっち	16:00 太陽の季節
	22木	13:00 網走番外地・望郷編	16:00 霧笛が俺を呼んでいる
	23金	13:00 網走番外地・望郷編	16:00 日本侠客伝・花と龍
	24土	11:00 いつも二人で	14:00 旅情
	25日	11:00 旅情	14:00 講演会
	26月	休館日	
	27火	13:00 どうぶつ宝島	16:00 アラン
	28水	13:00 ベニスに死す	16:00 プロジェクトA2
	29木	13:00 白い嵐	16:00 どうぶつ宝島
	30金	13:00 フィオナの海	16:00 白い嵐
	31土	休館日	



交通アクセス: 当館の駐車場スペースに限りがありますので、できるだけ公共交通機関をご利用ください。
地下鉄: 西新駅または藤崎駅から徒歩15分
西鉄バス: 天神～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約20分)
博多駅～都市高速経由～福岡タワー南口 (所要時間 昼間で約25分)
福岡タワー南口バス停から徒歩3分
いずれも、昼間は10～15分間隔で運行されていますので大変便利です。お近くのバス停からご利用につきましては、西日本鉄道テレホンセンター(電話 733-3333)に直接お問い合わせください。

編集雑記

シネ・コラムの記事は、当課の学芸担当者のリレーで執筆している。できるだけ役所臭さがないようにしているが、いかがでしょうか? 何か新しいことを始めるには「見直し」の精神が必要です。でも、映画フィルム保存は後世のために一貫した(100年以上の)頑固さ! が求められているのは、余り知られていない話です。(N)

Fukuoka City Public Library Movie Hall Ciné-là

福岡市総合図書館映像ホール・シネラ

〒814-0001 福岡市早良区百道浜3丁目7番1号

福岡市総合図書館(代表)092(852)0600 映像資料課092(852)0608 Fax.092(852)0609